

平成27年度 第4回協働のまちづくり推進計画検討委員会 会議録

日時	平成27年10月29日(木) 14:00~17:00
場所	富里市福祉センター2階大会議室
出席委員	久野委員長, 小出副委員長, 小川委員, 草野委員, 石川委員, 川嶋委員, 相川委員, 桑岡委員, 佐々木委員, 山本委員, 高澤委員, 藤田委員, 加瀬委員, 高嶋委員, 中津委員
欠席委員	佐藤委員, 土屋委員, 篠原委員, 中川委員, 小沼委員
アドバイザー	関谷 昇 氏 (千葉大学 法経学部 准教授)
事務局	市民活動推進課 粕谷課長, 岡村主査, 菅谷, 渡辺
傍聴者	なし

[会議次第]

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
 - (1) グループワーキング
※推進項目ごとの掲載事業の検討
 - (2) 全体共有
※各グループの検討内容を発表し合い, 全員で共有。
 - (3) 意見交換
※各グループの方向性に対し意見交換。
※アドバイザーから今後の具体的検討に向けたアドバイスをもらう。
- 4 その他
- 5 閉会

[会議概要]

委員長	次第3 議題 (1) グループワーキング それでは本日のグループワーキングの進め方について、事務局から説明をお願いします。
事務局	グループワーキングの進め方について説明。
委員長	ありがとうございます。本日は各グループの検討に、順次、関谷先生に入っていただきたいと思います。各グループ20分弱になるかと思いますがよろしくをお願いします。 それでは、終了5分前になりましたら、事務局より声をかけさせていただきますので、早速グループワーキングを始めていただければと思います。よろしくをお願いします。
	～グループワーキング～
委員長	それでは時間となりましたので、これより5分程度の休憩を取った後に各グループより発表していただきます。
	～発表～
委員長	それでは各グループより5分から7分程度で、検討した結果、資料1の見直した部分について発表をお願いします。既存のままとした部分については省略していただいて構いませんので、よろしくをお願いします。 1 環境づくりグループの発表 (1) 活動拠点の整備 - ①市民活動ブースの設置については項目を削除し、1 - (2) 活動支援及び中間支援機能の充実 - ②市民活動サポートセンターの創設へ移行し、市民活動サポートセンター事業内で継続実施することに見直す。 (2) - ①協働を推進する課の充実については、現状・課題を「市役所内の協働の意識付けを推進する課を中心に行っていく。」に見直す。 (2) - ②市民活動サポートセンター機能の充実については、

	<p>現状・課題を「市民活動サポートセンターは設置されたが、市民活動を支えるためのノウハウがまだありません。」に見直す。</p> <p>推進内容を「①相談対応力，②調査・情報収集力，③情報の編集・発信力，④コーディネート・ネットワーキング力，⑤資源の掘り起こし・提供力，⑥人材育成力，⑦政策提言力，この7つの支援力を備えていきます。」に見直す。</p> <p>実施主体を「市」に見直す。</p> <p>完了の目安を「継続」に見直す。</p> <p>次の項目以降は事業名の検討結果のみ発表。</p> <p>(2)－③活動支援アドバイザーの設置及び派遣については、事業名を「まちづくりコーディネーターの育成及び充実」に見直す。</p> <p>(3) 財政的援助及び活動資金の確保－①(仮称)市民活動支援補助金の充実については、事業名を「市民活動支援補助金の充実」に見直す。</p> <p>(3)－②市民活動支援基金の運用については、事業名を「(仮称)市民活動支援基金の研究」に見直す。</p> <p>(4) 活動単位(ネットワーク)の拡大－①地域づくり協議会活動の促進については、変更なし。</p> <p>2 担い手づくりグループの発表</p> <p>(1) 担い手の発掘・育成の充実 - ①市民活動サポートセンター機能の充実【再掲】については、現状・課題を「市民活動の拠点として新設され、本格的に運用が始まります。」に見直す。推進内容の「既存の組織(ボランティアセンター・社会福祉協議会)との管掌範囲等を調整し、市民活動サポートセンターを創設します。」を「市民活動サポートセンターの機能を有効に活用します。」に見直す。完了の目安を「活動・交流の拠点として整備され、市民活動の拠点としての環境が整うよう継続します。」に見直す。</p> <p>(1)－②協働のまちづくり講座の実施については、推進内容を「世代(小中高校生・働きざかりの年齢層・団塊世代)ごとに協働意識の啓発方法を検討し、サポートセンターと連携して講座を開設します。」に見直す。</p> <p>次の項目以降は事業名の検討結果のみ発表。</p>
--	--

	<p>(1) -③とみさと協働塾の実施については、変更なし。</p> <p>(1) -④協働の担い手リストの充実と活用については、変更なし。</p> <p>(1) -⑤市民活動表彰の運用については、変更なし。</p> <p>(1) -⑥リーダー育成講習会の実施については、変更なし</p> <p>(2) 担い手支援の充実 - ①市民活動保険の運用については、変更なし。</p> <p>(2) -②ボランティア貯金（※）の検討については、変更なし。</p> <p>3 情報の提供・共有グループの発表</p> <p>各事業で話し合うのではなく、情報の提供・共有についての全体的な内容について意見交換した結果、まず、(2) 協働のまちづくりに関する刊行物の充実は(3) 協働のまちづくりに関する情報発信の充実の中に入ってくるのではとの話になった。</p> <p>事業名については、(2) -①活動事例集の作成について、事業名を「活動事例の紹介」に見直す以外は変更なし。</p> <p>全体として、多様なツールを活用することが重要ではないかとの意見が多くあった。</p> <p>4 市政への参画・5 市の推進体制グループの発表</p> <p>4 - (1) 市政への参画の仕組みづくり - ①パブリックコメント制度の周知については、意見の出しやすい方法や環境づくりの検討が必要との意見があった。</p> <p>(1) -②市民提案機会の拡充については、「市長への手紙」の回答をもう少し早くもらえないか、封書で市長が直接開封するような形が取れないかといった意見があった。また、タウンミーティングについて、開催の仕方の検討が必要との意見があった。</p> <p>(1) -③審議会等への公募委員による市民参画の推進については、同じ顔ぶれになる事もあるので依頼方法を工夫する、参加しやすい環境を整えていくことが必要といった意見があった。</p> <p>(1) -④市政への参画機会の拡大については、募集するだけではなく直接現場に出向いて意見を吸い上げるといった形</p>
--	--

<p>委員長</p>	<p>を検討してはどうかとの意見があった。 ※ここで時間となってしまい、発表を終了。</p>
<p>A委員</p>	<p>ありがとうございました。 皆さんより各グループの発表を聞いた中で、他の視点や提案がありましたらお願いします。</p>
<p>B委員</p>	<p>27ページの市政への参画の仕組みづくりの市長への手紙というのがありまして、私も出したことがあるのですが、それまでは存在をあまり気にしたことがありませんでした。 この委員会に参加するようになり、色々思っていたことがあって出すようになりました。私の周りにもこうして欲しいと思っている人はいるのですが、あまり活用していません。 これは市と個人のやり取りになっているのではと感じています。スーパーなどでは、苦情や意見とその回答を張り出しています。市長への手紙もこのような形を取れば、皆さん興味を持って見てもらえると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>先程の発表では時間の都合で途中になってしまいましたが、市長への手紙について、グループの中でも提出した意見に対して回答がないと、意欲が削がれてしまうという意見がありました。意見に対して市からの返答がないなら今後返答する、現に返答しているのであれば、それが市民には周知されていないので、やり方の検討が必要だとの意見がありました。意見を張り出すことについては意見として出てこなかったのですが、個人情報との関係もあるのでその点がクリア出来ればとても良いと思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>それと提案なのですが、発表後に意見を話すのに10分から20分程度の時間では限界があるので、例えば次回までに他のグループに提案したいことを、事務局に提出して一覧表にまとめてもらえるともっと有効に時間が使えるのではないかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>他に何かありますでしょうか。</p>
<p>C委員</p>	<p>先程まで富里高校の会議に参加させていただき、グループの</p>

<p>委員長</p>	<p>中で協働のまちづくりについて話す時間がありました。富里高校も地域との連携・交流を希望しておられ、これからの若い人達に地域を知ってもらうために参加してきました。お互いを研究し理解し合い、学校や地域、市民活動団体が出来ること・望むことの中で、積極的に協力していきましようということを確認してきました。様々な事業に学生が参加するなど、地域に引き出すことが出来ればと考えています。</p>
<p>D委員</p>	<p>他に何かありますでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>私も高校生の参加について重点を置いておきまして、色々な部活動と同じように、市民活動部を作って年間活動計画を立てて地域と連携していくなど、具体的なことが出来ると素晴らしい富里市になっていくと思います。</p> <p>他に何かありますでしょうか。</p> <p>なければ、先程B委員よりご意見のあった会議の進め方についてですが、意見を求める時間も限られているので、内容を確認してご意見があれば事前に事務局へ提案いただければ、次回に書面で確認出来るようにしますので、お手数ですがよろしくお願ひします。</p> <p>それから、各委員からの意見があった中で、後期5か年計画の非常に重要な意見だと思ったのは、C委員とD委員からあった担い手の年齢幅を広くしていきたいという方向性のことです。これをもう少し視点を深めていくと、以前、関谷先生のアドバイスにもありましたが、地域の事業者との連携も考えていくと同時に、学校とその他の団体との協働、その仕掛けや仕組みについても検討していければと思います。</p> <p>また、A委員より市長への手紙についてご意見があったのですが、秘匿性の課題もある中で、市長へ意見を届ける方法としては手紙ということだけではなくて、例えば、問題提起をされた市民が地域で問題を共有したいという要望や、市長もいただいた意見を広く市民と共有したいということもあろうかと思ひます。情報共有という観点から、市長と市民との声のやり取りの方法を多様化していくことを考えていくのも1つの方法かと思ひます。</p>

アドバイザー	<p>この後、関谷先生より総括的なアドバイスをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それでは、私の方からいくつかのポイントについてお話しさせていただきます。</p> <p>各グループを回らせていただいて、それぞれの推進項目の中身が膨らみつつあるなど実感いたしました。次回も本日の続きとして議論が繰り広げられるということなので、そのつなぎということも含めてコメントしたいと思います。</p> <p>環境づくりについては、1つは協働を推進する課の充実ですが、これは市役所内における協働体制をどのように作っていくのかという部分での横断的な担当課ということで、通常ある課とは本来は位置付けが違うものだと思います。それをどのように活かしていくのかということが、これからの後期5か年計画の中での大きな役割に関わってくるところだと思います。一般的な行政が置かれた状況としては、市民は色んな担当課と連携していきたいといった協働の広がりが見られますが、行政内部では協働の広がり弱く、活性化していかない事情がいくつかあります。</p> <p>1つは、財政的に厳しいということで、事業の縮小や人員の縮小という方向に向かっていることがあります。人員の縮小に向かっているということは、職員1人あたりの業務量が増えているということで、それはそれぞれの担当課でこれ以上負担を増やしたくないということに必ず結び付いてきます。そして負担を増やしたくないということは、協働をしたくないということに繋がっている。そのため、うちの課には協働関係の話は持ってこないでくれないか、というムードが都市部でも農村部でも見られる傾向です。そういった状況である限りは、負担は増やしたくない、だからやらないといった縮小再生産の方向、負のスパイラルへ向かってしまいます。行政組織としては、やれないことはやらないといったところがあります。これまではそれで良かった部分もあるかも知れませんが、今後は人口も減っていく、高齢化も進んでいくといった中で、地域づくりというのは必須になってきます。地域づくりに本気で取り組む自治体とそうではない自治体で格差が出てきます。だからこそ今の段階から地域づくりにどのく</p>
--------	--

らい力を注ぐのか、そして、その力をどのように行政で活かしていくのか、この知恵とやり方というのを充実させていかなないと、やらない自治体はどんどん衰退の一途を辿っていくのかなと思います。そういったこともあるので、縮小再生産ではなくて、拡大をどう狙っていくのか、そのためには協働というのは職員からすると負担が増えると思います。例えば、市民活動を支援する予算をつけないといけない、人を当てないといけない、市民とやり取りする時間を確保しないといけない、といったことが出て来ると、短期的には負担が増えるかも知れません。ですが、協働というのは中長期的に見ていかなければならないものであって、今の短期的な部分でお金や人が関わってくることで、地域力や市民力が膨らんでいきます。その流れを作れるかどうか、その流れが出来て成熟していけば、行政とすればそういった市民と色々な形でパートナーを組みながら、色々な事業を展開していく。その中で、行政固有の事情としてどんどん事業を縮小しなければならないのであれば、縮小する分、そういった連携の部分を膨らませていく。そうすることで、行政のやりきれない部分を少なくしていくことが中長期的な1つの形なのです。短期的には負担も増えるし、予算もかかるかも知れません。ですが中長期的に見れば、行政にとってもメリットになっていくという意識を、各担当課が持てるかどうかなのです。市民側からすれば、行政はもっとこうすればいいのに、こういうところはもっとチャレンジしていかなければダメじゃないかと思うことは、行政側から見ると負担増と映ってしまうところがあります。そこをどのように解きほぐしていくのかというのが、協働を推進する課の今後の役割だと思っています。単に負担が増えるということではなくて、中長期的に捉えていきましょうということと、その中でそれぞれの各担当課で持っている計画や事業というのを、どうすれば協働と結びつけて、どうすれば中長期的にプラスの方向に向いて行くのかということを考えていくような行政内の体制を、少しずつ作っていくということが問われるということをもっと申し上げておきたいと思っています。

それから、サポートセンターについては、どのグループを回っても非常に大きな位置付けになっていて、色々な取り組み

についてサポートセンターが何らかの形で関わってくるというところになっているかと思います。それだけ、この協働のまちづくりを進めていく時に、サポートセンターの役割というのはやはり大きく、先程の発表にもありましたが相談というところから政策提言まで、やりうることは多いと思います。富里市の場合はそれを新しく作るわけですので、10年・15年前からあるものと違って、先程の部分をどのように積極的に機能として盛り込んでいけるかどうかというのが大きな役割になってくると思います。個人的な印象からですが、やはり全体としてみると、サポートセンターというのはつなぎ役なのだと思います。運用の仕方としては、相談業務はもちろんです。問題や課題提起を市民に向けて発信していく、巻き込んでいく、繋いでいく、そしてそれを形にしていく。まさにそういうプロセスを共に歩んでいくのがサポートセンターのイメージだと思います。それをそれぞれの取り組みの中で、どのように組み合わせていくのかという視点でセンターを位置付けておくことがとても大事なところかなと思います。こういう役割がありうるのではないかというのは、それぞれのグループで出ていると思います。こういった役割もやりうるのではないかといったことを、是非、この後の議論でもどんどん出していただければなと思います。まちづくりコーディネーターというのも、ある意味ではその中で育てられていくところなのかなと思いますけれども、どのような媒介役が求められているのかということも大事なことで、御存じのとおり地域というのは縦割り化しがちです。自分たちのところで一生懸命やっている、それを突き詰めていくというのが日本人の文化的側面みたいな形であって、職人文化というものがあるかと思いますが、1つのことをコツコツと積み重ねていって1つの形というものを作り出していくという志向性がある、丁寧に物事を進めていくというところがあります。それと同時に日本人の特徴というのは内と外の部分や、建前と本音といった部分がある、どうしても外側に対しては冷たくなってしまい、内側に対してはすごく仲良くなるという部分がある、なかなか横に繋がる、横に開かれていくといったところが弱いということが、諸外国と比べると指摘される場所なのです。一生懸命やっているという部分を、

	<p>どのように横に開いていけるかということが、これからのまちづくりの現場で問われていくところだと思います。その開いていくということをセンターやコーディネーターが意識的にやれるかどうか、そういう人材を育てていかないと、つなぎという部分が果たされていかないというところがあると思います。横のつながりは難しいですが、これを突破していきただけの人材というのをどのように育ていけるのかということが、大きな課題になってくるかなと思います。</p> <p>活動範囲の拡大ということで、地域づくり協議会の検討というのは、横のつながりを作っていく1つの契機になると思いますが、活動範囲というのはもっと豊かに考えてもいいと思います。地域づくり協議会というのは、小学校や中学校単位で横のつながりを作っていくという取り組みですけれども、それ以外にも色々な単位があります。例えば、農業や商工業といった業界や、中学生や高校生といった世代が横に交わっていくといったこともありうる場所なので、地域ベース、業界ベース、世代ベースなどの色々な視点を考えていくということも必要になってくると思います。</p> <p>担い手づくりについては、先程から申し上げている「つなぎ」をどのように果たしていけるかということと密接であると思います。特に協働を進めようとするハードルが高いことをやらなきゃいけないのではないかという風に、一般市民の方々に受け止められている部分がまだまだあると思います。協働のまちづくりが豊かになっていくというのは、自分なりの関心、自分なりの思い、あるいは自分なりの危機意識によって関わっていけるすそ野が広がっているということ、言い方を変えれば、自分なりに入っていける入口があるかどうかということが、協働のまちづくりを考えていく上で非常に大事な課題なのです。この入口が非常に限られてしまっていると、なかなか入っていけない。でも、私はこんなことぐらいしか出来ないけれども、それでも皆さんのために役立っているのかなという部分、そういうすそ野をどういう風に開いていけるのか、あるいはそういったことを開いていくための仕組みとしてどんなことがありうるのかということを考えてみるのが大事だと思います。そのために講座や協働塾について、すそ野を開くための場にしていく、あるいは今やっているこ</p>
--	--

とをどんどん発展させていくことが必要かなと思います。要するに自分の持っているものや出来ることを持ち寄っていくというのが協働のまちづくりの根本的なイメージなのです。農家の方々であれば、こういったものを作っているよというのが1つの持ち寄りになりますし、作物に関する知識や技術を教えることも持ち寄りです。このように考えていけば、それぞれの立場、それぞれの業界、それぞれが持っているものや得意としているものをどんどん出していくことでやりがいに繋がったり、モチベーションを高めることに繋がったりということもありうるので、そういう意味での繋がりというものを作り出していくというのが、担い手づくりの部分で相当問われてくることかなと思います。ですからこういった講座を通じて、全体の動きを知るというのも大事ですし、協働塾を農家主催、商売をされている方々の主催、学校の主催といった色々なところで主催されるのも良いと思います。それをセンターが繋いでいくようにしていけば、色々な入口が広がると同時に、繋がりにも発展していくと思いますので、そういう点を、今後、検討していただけたらかなと思います。情報の提供・共有については、先程の発表にもありましたが、地域SNSであるとかツイッターということを含めて、色々な手法というものがかなり多角的に開発され運用されているところですが、大事なのはそれらをやみくもに導入していくことよりも、それぞれの文脈には世代によって価値観の違いといったものがありうるので、どういう場面で、どういうスキルを使っていくのかということ整理すると良いのかなと思います。例えば、緊急時にはツイッターというのは非常に効果的で使える人がどんどん情報を発信することで共有がなされていきます。でも、それだけではなかなか高齢者の方々はついていけない、共有出来ない部分があるとすれば、そこをどう補完することが大事なのかというのが、また1つの文脈になるのです。そのように色々な手法をどの場面で使うのか、こぼれ落ちてしまう場合にはどのような補完が必要なのかということを考えていくと、情報の共有という話になってくるのです。情報というのは常に発信する側と受け手がいるわけですので、そこをどのように繋いでいくのかというのが、これからの協働のまちづくりにおける情報のあり方だと思

	<p>ますので、どの場面でどのスキルが有効なのか、どのように繋げればそれが生きるのかということ、協働のまちづくりの中でさらに考えていくことが大事かなと思いました。</p> <p>協働専用HPの開設ということで、これも非常に大切な部分で、とりわけ協働というと情報が拡散しがちなところがあると思いますけれども、それをある程度集約しながら各方面へ伝えていくということが大事になってくるかなと思います。</p> <p>例えば、こういった市民活動をされている方々がいる、こんなまちづくりをしている方々がいるといっても、その情報をその活動をやっている方々の目線で作ると、その情報はなかなか伝わっていきません。逆に受け手側を想定して情報を発信していくと受け取る側として入ってきやすくなります。受け手の目線に立ってどういうことが出来るか、例えば、アートなまちづくりをしてみたい市外の若者に対して、こういうチャレンジ出来る場があるといった入口について発信されていけば、市外からどんどん来てくれます。そういった情報の開き方というのがすごく大事で、常に受け手側を想定した情報の加工や発信というものが出来るかどうか、そういう視点から、協働専用HPを作っていくとアクセス数もどんどん増えていくと思います。活動している側の都合と論理で作っていると、1～2回見て覗かなくなる可能性があります。だからこそ、魅力を伝えたいと思うのであれば、受け取る側の目線から、魅力に接近してもらえそうな回路を作る情報を考えてみると良いと思います。</p> <p>市政への参画については、先程ご指摘がありました、わかりづらさというものがあると思います。パブリックコメントにかけられる計画案は、審議会で練られてきてそれなりの情報量になったものを、3週間から1か月間提示していますが、最初から細かく読んでいこうとする市民はほんの一部だと思います。ですから、結果的にパブリックコメントの件数も、一桁や0件の場合がありますので、パブリックコメントにかける前のプロセスについて、もう少し丁寧に汲んでいくという部分があっても良いのかなと思います。実情としては、それぞれの計画の事業実施を考えると、いつまでに形を作らなければいけない、いつまでにパブリックコメントをかけなければいけないということになっていますので、周知させたり</p>
--	---

	<p>共に理解したりするためのプロセスをなかなか確保出来ないということになります。もう少し余裕を持ったスケジューリングを出来るかどうかは1つですし、中身をわかりやすくしたパブリックコメントのかけ方があっても良いのではと思います。</p> <p>パブリックコメントに並んで大事だと思うのは、行政が出ていくパブリックインボルブメントです。インボルブメントというのは巻き込むということで、例えば、子育てに関する計画を立てる時には、子育て支援の現場で活動されている方々への現状の情報収集や意見交換を直接出向くことで巻き込んでいくことです。そういうことをしないと、パブリックコメントというのは一辺倒になりかねません。実際に関わっている方々に話を聞くことで色々な実情が見えてくるので、そういった意見の集め方ということも、今後、工夫していく必要があるのかなと思います。</p> <p>あと市民提案・市民参画の機会を膨らませるために大事だと思うことは、応答性だと思います。提案をしてもその結果などが返ってこない、次も意見を出そうという気持ちにはなかなかならないと思います。行政が対応する場合、内部で検討してみますとなった後に、結果がどうなったのかを知りたいという部分があると思います。もちろん、出来ることと出来ないことがあるわけですから、出来ないといった回答もありうるのです。ただ、大事なのは出来ないにしても、100のうち10でも20でもこういったことなら出来るので一緒にやってみませんかというようなお互いのやり取りが出来るかだと思います。市民もそういった場面で色々経験していくと、今回はダメでもまた違った形で提案してみようかなというように考えるといったすそ野が広がっていくと思います。0か100かで考えるのではなく、今は出来ないが状況の変化や色々な要因が絡んでくれば出来るようになるかも知れない。だとすれば、それを繋ぐというのが協働なのです。0か100かの間部分をどのように継続させられるのかという部分の発想と仕組みがまだまだ弱いと思います。時間をかけながら一緒に考えていきたいと思いますという場や機会が作られるだけでも違ってくると思いますので、応答性を担保していく環境としてどのようなことがありうるのかというのを考え</p>
--	--

<p>委員長</p>	<p>てみると良いのかなと思います。参画機会を開きながら、そのプロセスも丁寧に保障していくということが大事だと思います。</p> <p>それと参画機会ということで、市民活動補助金にも関わるところですが、補助金制度を行っている多くのところでは、提案主体はNPO団体や市民活動団体が中心となっています。企画を練って提案をして、第三者委員会で評価されたら採択されて補助金が出るといった形で多くの自治体は回していますが、提案の形をもっと膨らませてもいいのではと思います。例えば、お金を絡めるかどうかは別として、子どもたちに提案させるといった場や機会があっても良いと思います。ある自治体では高校生が住んでいる自治体の課題を検討し、政策を提案するといった取り組みをしているところがあります。中学生議会や子ども議会をセレモニーとして終わらせてしまう現状ありますが、そこでの子どもたちからの提案を市として可能な範囲で取り上げるといったすそ野を広げていくと、子どもたちのまちづくり参加へのすそ野が開かれていくと思いますので、参画を広げるための大事なことかなと思います。考えたり取り組んだりしたことが具体化することでモチベーションを高めていくことに繋がると思います。これから色々な人たちがまちづくりに参加していきたいと思えるようなすそ野を開くことがこの計画の根本主旨だと思いますので、それを念頭に入れておきながら次回以降も議論を深めていただけたらなと思います。</p> <p>関谷先生、ありがとうございました。</p> <p>皆さんの議論と関谷先生のアドバイスを聞いて私が感じたことなのですが、1つのキーワードとして多様性ということがあったのではと思います。アドバイスの中に単位の多様性というのがありました。世代、業界、場面に対して多様な方法や入口がある中で、いかに後期5か年計画で仕掛けづくりが具体的に作れるだろうかといった知恵を出していただけたらいいなと思いましたので、次回も色々なご意見をいただければと思います。</p> <p>それではこれで本日の議題を終了し、進行を事務局へお返しします。</p>
------------	--

事務局	<p>次第4 その他</p> <p>ありがとうございました。 最後に事務局から1点ご案内差し上げまして、会議を終了とさせていただきます。</p> <p>1. 次回以降の会議日程について</p> <p>第5回 平成27年11月24日(火) 午後1時30分～</p> <p>第6回 平成27年12月18日(金) 午後2時～</p> <p>～閉会～</p>
-----	---